

「君が僕の息子について教えてくれたこと」を鑑賞して・・・

(抜粋)

できないことや苦手なことばかりに目を向けてしまいがちですが、できること、得意なことを見てあげようとしてくれる人がいるのは、とても幸せなことだなと感じました。自分には理解できないことだと突っぱねてしまうのは、その人のことを見ようとしただけでなく、自分のこともよく見ようとしなないことなのだと考えました。自分の理解できる部分だけを集めても、それは自分を成長させてくれないし、返って自分を閉じ込めてしまうと思いました。私は、これからいろんな知識や見聞に触れていく中で、自分が理解できるかではなく理解しようという気持ちでいようと思いました。

「自閉症の僕が飛びはねる理由」という本について知って、今までの東田さんの葛藤や苦悩が分かりました。「人の視線が怖い」という言葉がとても衝撃的でした。なぜなら、人はコミュニケーションをとる際、アイコンタクトをして他人を理解しようとするからです。視線が怖いのは紛れもなく私達の自閉症に対する悪い考え方が社会に反映されているからだと思います。自分がしたくてしている訳でもないのに、体がいうことを聞かないという困難なことに出会っても、東田さんはきちんと向き合って自分のいいところを活かして生きていくところがすごいなと思いました。私も自分と向き合える人になりたいと思いました。